

平成30年度 上田市立長小学校 自己評価シート 中間報告

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価					
かしこく きよく たくましく	「知」「徳」「体」の調和のとれた たくましい子ども ◎自分をふりかえり よく考える子(自分で学習計画を考えて学ぶ) 「かしこく」 ◎友だちとかかわり 思いやりのある子(自分から挨拶できる) 「きよく」 ◎進んで取り組む ねばり強い子(自分清掃に取り組む) 「たくましく」	重点目標の「あいさつ」「清掃」「学習」への取り組みを大事にしてきた。児童も真面目に取り組もうとしている。年度後半に向けて、更に「自分から」という点を大事にして取り組んでいきたい。児童が意欲をもって自ら取り組める工夫を、様々な場面で検討していきたい。また、児童一人一人が自尊感情をもてる学級づくりに努めていきたい。					
	今年度の重点目標 → 月目標の設定	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	進んで あいさつ (4, 7, 10, 1月) <相手に伝える声> むごんで 清掃 (5, 8, 11, 2月) <自らの心に問う> 自分から 学習 (6, 9, 12, 3月) <やった! できた! 実感>	児童に重点目標を年度当初に呼びかけ、職員も意識して取り組んできたが、月目標についてはあまり意識しての取り組みができなかった。		○			月目標を、まずは職員間で明確にし取り組んでいく。児童会活動なども連携しながら児童が自らすすんで取り組んでいける取り組みを探っていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	意欲を持てる授業	自然・ひと・ものと関わり、問題解決をしていく授業づくり	授業改善：自己課題を明確にし、改善案を作成する	授業評価アンケートを実施し、成果と課題を明確にして2学期に入ることができた。		○			授業の一人一公開を実施し、意見交換しながら更に授業改善に取り組んでいく。
			言語活動の充実：自分の考えを自分の言葉で伝える場面をつくる	授業の中に発表場面を設定し、なるべく多くの児童が発表できるようにしてきた。		○			発表の仕方などを明確にし、児童全員が一日に一回は発表ができるようにしていく。
			課題把握場面の充実：児童が見通しをもって授業に取り組めるようにする	学習問題や学習課題を提示し、児童が見通しをもって取り組めるようにしてきた。		○			板書計画を立て、活動の流れも提示するなどし、児童が見通しをもてるようにする。
	認め合う学級	自尊感情を育て、自分の存在が認められる学級づくり	一人一人の自信(自尊感情)につながる振り返りを継続する	一人一人を大切にしたり取り組みをしてきたが、自尊感情をもちづらい児童がいる。			○		自尊感情をもちづらい児童に対し、個別の指導計画を立て、より丁寧な対応をする。
			友だちとの協働を生み出す活動を設定する～長っ子タイムの充実～	各学年の計画で長っ子タイムの学習に取り組む、友との関わりがもてるようにした。		○			ペアやグループを工夫し、一人一人の課題に合った関わりがもてるようにする。
			子どもと対話し、子どもの様子を的確につかむために教育相談を学期に1回行う	なかよしアンケートを実施して実態を把握し、面談を行った。		○			特に、自尊感情をもちづらい児童に対して継続的な実態把握や面談を行っていく。
開かれた学校	学年を越えた関わりや地域との関わりを広げる学校づくり	家庭・学校・地域へ広がる あいさつ活動を進める	今年度の重点目標の一つとして日々のあいさつを大事にして取り組んできた。		○			特に重点とする月を明確にして児童会活動等とも絡めて取り組んでいく。	
		学年を越えて関わりあう活動に取り組む	姉妹学級での活動や児童会祭りの活動で、学年を越えた関わりをもてた。		○			連学年など、姉妹学級以外の学級との活動も検討していく。	
		長の自然・歴史(真田)・文化・伝統に学ぶ体験活動や交流活動を取り入れる	地域のNPOと連携した体験活動や交流活動に取り組んでくることができた。	○				年度後半も様々な活動に取り組んでいく。	
学校運営	情報の発信	学校だより、学年だより、ホームページ、学校メール等で、学校の様子を知らせる	学年だより、学校だよりを定期的に発行し、学校の様子を知らせることができた。		○			内容の充実をはかりながら発行回数を少なくすることも検討していく。	
		連絡帳、電話連絡、訪問などで家庭との連絡を密にする	学校での怪我や病気、欠席時などに確実に連絡をとるようにしてきた。		○			継続していく。	
	家庭との連携	手引きを基に家庭学習の習慣化を図る	学級懇談で手引きについて解説し、家庭の協力を得ながらすすめてきた。			○		手引きで設定した内容や学習時間の取り組みが確実にできるようにする。	
		危機管理	児童の安全・安心を確保する 非違行為の根絶	環境整備に努めると共に、職員間の連携もはかってきた。		○			安全に関わる点について気づいたことは早めに共有し、改善していく。

○評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった